

(アジア史 2-7)

生徒番号()氏名

インドへのイスラーム流入とムガル帝国(2)

- (4) [1] **アウラングゼーブ** 帝、帝国の領土最大に
イスラーム至上主義 = [2] **ジズヤ** の復活など → [3] **マラーター** 族やシク教徒の反乱など
 デカン高原 [4] **パンジャーブ** 地方

14世紀後半、中央アジアを中心に大帝国を建てた[5] **ティムール** の子孫[6] **バーブル** は、16世紀アフガニスタンからインドに侵入[7] **ムガル** 帝国を建てた。3代目[8] **アクバル** 帝はインドのほぼ全域を支配した。彼は宗教的には[9] **寛容** であり、[10] **ヒンドゥー** 教徒へのジズヤなども廃止した。しかし6代目の[11] **アウラングゼーブ** 帝は、侵略戦争をつづけ領土を最大としたが、[12] **イスラーム至上** 主義をとり他の宗教を抑圧したため、[13] **マラーター** 族や[14] **シク** 教徒などの反乱が発生、インドは分裂状態していく。なお 5代目のシャー＝ジャハーンがアグラに建設した[15] **タージマハル** 廟は世界の建築でもっとも美しいものの一つである。

- (5) イスラーム教とヒンドゥー教の融合
 [16] **カビール** …不可蝕民への差別を非難し、人類が根本的に一つであることを説く
 15～16世紀初
 [17] **ナーナク** …[18] **カースト** の区別なく解脱できると説く = [19] **シク** 教を開く
 15～16世紀
- (6) ムガル美術…[20] **ミニアチュール(細密画)** 中心 ← イランから
 建築…[21] **タージマハル** = インドイスラーム建築の代表・シャー・ジャハーンが妻のために建てる
- [22] **ウルドゥー** 語…ペルシア語とインドの地方語の融合 **パキスタンの公用語**

イギリスのインド支配とインド大反乱

- (1) ヨーロッパ人のインド進出 → [23] **デリー＝スルタン** 朝の時期
 1498 ポルトガルのバスコ＝ダ＝ガマ、[24] **カリカット** に到達 → 1510 [25] **ゴア** を占領
- (2) 1600 イギリス、[26] **東インド** 会社設立
- 拠点[27] **カルカッタ** [28] **マドラス** [29] **ボンベイ**]
- 17世紀末以降 フランス…総督[30] **テュブレクス** のもとで勢力拡大
- 拠点[31] **シャンテルナゴル** [32] **ボンジシェリ**]
- (3) 18世紀前半 [33] **カーナティック** 戦争 = インドを舞台に英仏が争う
 → 1757年、イギリス、[34] **ブラッシー** の戦いでフランス・インド地方政権連合軍を破る
 → 1765年、ベンガル地方は英[35] **東インド会社** 領となる

以後、各地の地方政権と戦い支配地を拡大
 [36] **マイソール** 戦争 → 南インドのマイソール王国を滅ぼす

[37] **マラータ** 戦争 → 中部インドのマラータ同盟と戦う
 シク戦争 → 西北インド[38] **パンジャーブ** 地方の[39] **シク** 教徒を破る) などにより
 → インド全土がほぼイギリスの支配下におかれる

1498年[40] **ヴァスコ＝ダ＝ガマ** が西海岸の[41] **カリカット** に到達して、インド航路を開発して以降、ポルトガルが[42] **ゴア** を占領するなどヨーロッパ勢力のインド進出が進んだ。
 イギリスは1600年[43] **東インド** 会社を結成、インドへの侵入をはかった。これにたいし、フランスはルイ14世時代、[44] **コルベール** の重商主義政策を背景にインド進出をはかった。こうしてインドを舞台に英仏両国が争うという[45] **カーナティック** 戦争が発生、フランスはインド総督[46] **テュブレクス** のもとにイギリスを追い付めた。しかしその失脚後の1757年[47] **ブラッシー** の戦いでイギリスはフランス・ベンガル地方政権の連合軍を破り、ベンガル州を事実上の植民地化した。
 こののち、インドでは[48] **マイソール** 戦争によって南インドを、3次にわたる[49] **マラータ** 戦争でインド中部に、さらに[50] **シク** 戦争によってパンジャーブ地方を支配下においた。こうしてインドはしだいにイギリスの支配下におかれた。

- (4) イギリスの植民地支配
 産業革命の進展 → 産業資本家はインドを最有力な[51] **原料供給地** [52] **製品市場** と考える
 → [53] **東インド** 会社の貿易独占に反対、自由貿易を求める
 [54] **茶** を除く独占貿易を廃止 → 1833東インド会社の商業活動を全面禁止、統治のみに
- 18世紀までのインド…世界最大の[55] **綿布** の輸出国、その他アイなども輸出
 ↓
 19世紀以降のインド…イギリスに安価な[56] **綿花** を供給し、イギリスの[57] **工業製品** を輸入
 → 世界最大の生産量を誇った[58] **綿織物** 業の壊滅
 アイ・[59] **綿花** ・[60] **アヘン** など輸出作物の栽培に重点を置く
 → 中国に輸出
 イギリス人経営による[61] **プランテーション** 経営の拡大
 18c末～19c初 大地主に土地所有権を認め、そこから徴税を行う([62] **ザミンタリー** 制)
- (5) 1857年 [63] **シパーヒー** の反乱(「1857年インド独立戦争」)発生
 北インド全域に広がる、広範な人々の参加 → デリーを占領、[64] **ムガル** 皇帝復活を宣言
 ↓
 自然発生的性格、宗教同士の対立などの弱点をもつ → イギリス軍に鎮圧される
 [65] **ムガル皇帝** の廃位、[66] **東インド会社** を解散 = 英本国による[67] **直接支配** にふみきる
 → 1877[68] **インド** 帝国成立を宣言
- (6) 19世紀の後半、大飢饉の頻発、農民の反乱などつづく
 (餓死者は1850～1900で2000万人に達する)

1857年 全インド的をまきこんだ自然発生的な反乱、[69] **シパーヒー** の反乱(「1857年インド独立戦争」)が発生した。インド民衆は各地で蜂起しイギリス軍とたたかった。これに対しイギリスは、1858年[70] **ムガル** 皇帝を追放するとともに[71] **東インド** 会社を廃止しインドの直轄統治(植民地化)を実現、つづいて1877年にはイギリス(女)王を皇帝とした[72] **インド帝国** を成立させた。